令和6年度　江戸川区立平井南小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	体をきたえ　　心をひらいて　　みずから学ぶ子 なかよく助け合う子 みらいへたくましく進む子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・児童、 教職員、地域にとって行きがいのある学校 ・自ら学び、友達と仲よく、目標をもって粘り強く努力し、元気に生活しようとする児童 ・教育の専門職としての自信と誇りをもち、熱意をもって職務や自己研さんに励み、児童・保護者・地域等から敬愛され信頼される教師
前年度までの本校の現状	成果	・「共生社会の実現に向けた教育の推進」について、校内外の組織や関係諸機関等との連携や校内研究を核とした取組を充実させることができた。 ・「特色ある教育の展開」について、異学年集団活動の推進や充実を図ることで、自他を思いやる心を育成することができた。	課題	・「学力の向上」について、基礎的・基本的な内容の定着に資する指導や教材等を含む教育環境等の整備の充実を推進していく。 ・「体力の向上」について、休み時間の時間帯を活用した「いきいきタイム」の活動内容の充実や評価方法の工夫などを推進していく。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・「学力向上アクションプラン」に基づく取組を核とした基礎・基本の確実な習得	・年３回実施する定着度調査で、平均正答率を５％以上向上させる。											
		・授業におけるＩＣＴの活用の促進	・１日２単位時間以上授業でＩＣＴを活用している教員を80%以上にする。											
	○読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実	・児童一人当たりの年間平均図書貸出数を40冊以上にする。											
体力の向上	○体力向上のための取組の充実	・主体的に運動に取り組む態度の育成	・体力テストの結果等を踏まえた体育朝会等の取組を年５回実施する。											
		・「江戸川っ子なわ跳びチャレンジ」の取組の充実	・各学期の取組において上達段階の割合を５％ずつ向上させる。											
共生社会の実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実	・特別支援教室、SC、巡回心理士との連携による個に応じた指導の充実	・個に応じた指導のための情報共有を週１回程度実施する。											
	○エンカレッジルームの活用促進	・特別支援教育コーディネーターの複数配置による組織的な対応の充実	・やむを得ず教室に登校できない児童等の居場所や学習機会等を確保する。											
	○副籍交流の実施	・対象児童の実態や受け入れ条件等に応じた交流の実施及び共同学習の検討	・各種便りの交換による交流等を月１回程度実施する。											
不登校・いじめ対応の充実	○不登校対応の充実	・SC、SSW及び関係諸機関等との連携の充実	・どこにもつながりがもてていない不登校児童を０「ゼロ」にする。											
	○いじめ対応の充実	・児童の問題行動等の未然防止、早期発見、組織的な早期対応	・いじめが認知された場合の、３か月以内の解消を目指す。											
	○hypaer-QUの活用	・「hyper-QU」の調査結果の共有や分析に基づく指導等の充実	・個人面談の機会を活用した保護者との情報共有を年１回行う。											

地域社会に開かれた学校（園）の実現	○学校ホームページの充実等	・各学年等による「学校ホームページ」の更新	・各学期中週１回程度の更新を行い、情報発信の充実を図る。											
	○ＩＣＴを活用した連絡や情報共有の充実	・ＩＣＴを活用した連絡や情報共有の充実	・保護者対象の意識調査における肯定的な回答の割合を80%以上にする。											
	○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校関係者評価委員による参観機会等の確保や情報発信の充実による適正で適切な評価の実施	・学校行事等を活用した参観及び評価の機会を年６回程度設定する。											
特色ある教育の展開	○異学年集団活動による自他を思いやる心の育成	・異学年集団による定期的な「ふれあい班活動」や年１回の全校遠足の実施	・保護者対象の意識調査における肯定的な回答の割合を80%以上にする。											
	○「本物」を見る、知る、聞く、触れる教育の推進	・外部講師を招聘した取組の年２回程度の実施												
	○地域の人材や環境を活用した教育の推進	「学校応援団」による「読み語り」や「平和学習」等の地域の人材や環境を活用した教育の推進												